

高 校 選 び (4)

夏休みが終わり、授業が再開され、中学3年生は志望校を目指して勉学に励んでいる時期だと思います。夏休みには各地区の公私合同説明会が開催され、各校の学校説明会に行き実際に高校を見ることができたのではないかと思います。本校では9月2日(土)に第1回目の学校説明会が開催し、平成30年度入試に向け本校独自の本格的な広報活動をスタートさせます。

現在の中学3年生が入学し、高校を卒業するときは大学入学共通テストが開始されます。大学入学共通テストは、現行の大学入試センター試験に替わるテストです。大学入試センター試験は2020年1月の実施をもって廃止されます。このテストに替わるのは高大接続改革に基づくものです。新テストは現行のテストとの大きな変更は、記述式問題の導入と、英語について民間試験を活用した4技能(読む・聞く・話す・書く)を評価することが挙げられています。現行の大学入試センター試験では出題形式がマークシート方式であり、英語は読む・聞くという2技能を評価しています。今回の高大接続改革の新ルールでは、受験生が大学に入学し、大学で学ぶのに必要な学力を有しているか、否かを測定するためのテストを課そうとしています。テストをとおして学力の3要素である①基礎的・基本的な知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体的に学習に取り組む姿勢などを多面的・総合的に評価することになります。そのため大学入学共通テストでは、大学入試センター試験ではなかなか測ることのできない、思考力・判断力・表現力を記述式問題や、英語の4技能の評価する試験が課されることとなります。

現行の大学入試には「一般入試」「AO入試」「推薦入試」というふうに分かれています。現行のAO入試、推薦入試は、文部科学省が規定する「大学入試実施要項」では、学力検査は原則免除と記されています。私立大学のなかには、優秀な学生確保や定員確保のため、学力を問わない学校が存在する事態となっています。それが日本の学生の質の低下を招いているという人も少なからずいます。そこでAO入試は「総合型選抜」、推薦入試は「学校推薦型選抜」と名称を替え入試選考方法も大きく変わります。

総合型選抜は調査書等の出願書類に加え、各大学が実施する評価方法等又は大学入学共通テストの活用を用いた選抜になります。学校推薦型選抜は調査書、推薦書等の出願書類に加え、各大学が実施する評価方法等又は大学入学共通テストの活用を用いた選抜になります。すなわち、現在のAO入試や推薦入試で多く見られるような学力評価を問わない入試ではなく、国公私立を問わず、知識や技能を問う試験を課すこととなります。各大学が実施する評価方法等は何を意味するのか、これから各大学によって具体的に示されてくると思いますが、小論文、プレゼンテーション、口頭試問、実技、学科試験、検定試験などを活用するか、大学入学共通テストを活用することになります。

総合型選抜の出願は9月以降、学校推薦型選抜の出願は11月以降となり、合格発表は総合型選抜が11月以降、学校推薦型選抜は12月以降になります。大学入学共通テストの実施は1月中旬ですので、大学進学を総合型選抜や、学校推薦型選抜を利用して不合格になったとき、大学入学共通テストを受験していないと、大学進学することができないと予想されます。いまの中学3年生から大学進学を考える場合は、大学入学共通テストを受験しておくことが大切です。一応、受験するために出願しておかなくてはなりません。もし総合型選抜、学校推薦型選抜を受験して不合格になったとしても、事前に出願していなくては2月以降に実施される各大学の個別試験を受験することができないと思います。

本校は昨年度より大学入学共通テスト(昨年までは「大学入学希望者学力評価テスト」という仮称)に対応した学習指導、進路指導を考え、体制づくりを図っています。

1. 7時間目を導入したり、年間行事を見直したりすることによる授業時間の確保
2. 思考力・判断力・表現力を高め、主体性を持ち協働して学ぶ力を育成するためアクティブ・ラーニングの視点をういた授業改善
3. 基礎学力定着・発展的な学力向上のための年間5回の定期テスト
4. 授業中に業者テストを利用した実力試験の実施(3年間で10回程度実施)
5. 実力試験の英語に民間試験のGTECを採用
6. 英語検定等の資格試験の推奨
7. 総合型選抜、学校推薦型選抜の評価方法に対応するために「総合的な学習の時間」を利用してプレゼンテーション力やインタビューする力の育成
8. 生徒の幅広い進路選択が可能なカリキュラム編成
9. 大学だけでなく、専門学校、公務員試験、就職に対応した進路指導
10. 長期休業中の講習、補講の充実

今後も中央教育審議会答申や次期学習指導要領の動向を踏まえ、高大接続改革に応じた学習指導や進路指導を図っていく次第です。

今回の改革で、大学入学共通テストで記述式問題と英語の民間試験を活用することが、大学入試センターとの大きな変更点です。記述式問題に関しては、平成36年度から地歴・公民、理科でも導入する予定です。記述式問題が導入されることになり、いままでの大学入試センター試験より難易度が上がると予想されます。

英語に関しては民間試験を基本に実施しようとしています。現在の大学入試センター試験では4技能を測ることはできません。一度に多くの受験生の4技能を測ることができないので民間試験を用いようとしています。英語の共通テストは2023年度までとされています。共通テストがなくなれば民間試験を受検しなくてはなりません。実用英語検定2級で5,800円、GTECで5,040円、TOIEC L&Rで5,725円です。これ他にも民間検定試験はありますが、高いものだと2万円を越すものもあります。そういう点で大学入学共通テストになっても英語の共通テストは残すべきという声もあります。大学入学共通テストの受験料もかかる上に、民間試験の検定料もかかります。受験生や保護者にあまり経済的な負担がないようにしてほしいと思います。